

アメリカ留学報告

群馬大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 修士1年 岡田考志

今回の留学(2011年9月11日-9月23日)の目的はアナログ集積回路分野のUCLAでの勉強と国際学会(IEEE CICC)への出席でした。

留学先は米国カリフォルニア州にある University of California, Los Angeles(通称UCLA)で、全学科をあわせると100以上のコースがあるマンモス校です。キャンパスは広大で西洋式のレンガの建築物がキャンパス内に70以上。研究設備、食堂購買、運動施設、学科棟、学務棟、多目的ホール等多くの建物があり壮観でした。お世話になった研究室は工学部電気工学科のProf Asad Abidiの研究室です。研究室では小林研究室の新井さんの研究の打ち合わせを行いその後、留学参加者全員で研究を行いました。内容はサンプリング回路のトラックモードにおける3次高調波の周波数特性に関する研究です。またAbidi先生には位相ノイズ、ジッタの講義をしてもらいました。

UCLA滞在中にProf Abidi、Prof Itoh、Prof Razavi、Prof. Changに面会し話を伺うことができました。聞かせて頂いた話では学生の教育には基礎が一番大切であり基礎を重視して教えている。また、勢いのある国は海外留学をする学生が多く中国、インド、中東系の学生が今最も人数がいるそうで各国とても勢いがあるという印象をもちました。アメリカの大学は産業とのつながりがとても強く、教授は常に産業界の動向を調べて把握しています。それが日本とは違うと感じました。

また、ロサンゼルス滞在中にカリフォルニア州南部のハイテク企業と地元のソフトウェア会社を訪問しました。

参加した国際学会はシリコンバレー地区(San Jose 市)で開催された IEEE Custom Integrated Circuits Conference(CICC)という集積回路技術の国際学会です。集積回路の学会としてはレベルがとても高く権威のある学会です。自分の研究に関係のある論文発表を聞き最新の傾向を調べてきました。最近の傾向として医療関係の電源にはインダクタンスより容量を使った電源回路に注目が集まっていて小型化と低電力化には容量がとても強いそうです。他にRF、メモリ、ADC等の論文発表を聞き知識を深めました。

今回留学をしてとても感じたのは英語を話したいということです。街道、レストラン、学会、大学で話しかけられたときに英語がわからず申し訳ないと思い英語を話したいと強く感じました。そのおかげか留学に行く前と比べて英語を聞き取る力は身に付いたと思います。留学後半では随分英語で対応できるようになりました。今後もっと勉強し英語を話せるようになりたいです。

アメリカの大学、企業、風土と触れて海外にとっても興味を持つことができました。是非

次は長期の海外留学をしたいです。実際に長く海外に住むことで英語を勉強し、海外の大学で研究をすることで更に知識を深めたいです。

C I C Cにて

